

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【上落合小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	算数において、引き続き問題文をよく読むことを指導する。その際、問題のどの部分が立式や解答に必要なかを理解して読むことができるよう必要な数に線を引いたり、単位等に丸印をつけたりして視覚的に捉えやすくする。また、検算や見直しのポイントの指導についても充実を図る。教科書に掲載の適用問題を解くことで基礎・基本の定着を図るとともに、スタディサプリやドリルパーク等のコンテンツを用いて、習熟度に合わせた問題に挑戦する機会を増やすとともに、知識・技能の定着を図る。
思考・判断・表現	算数において、引き続き、問題文を図や数直線に表し、問題を相対的に捉えられるよう指導する。特に「もとにする量」の考え方を系統立てて継続的に指導することで、倍や割合、単量あたりの数についての考え方を確実に身に付けられるようにする。過去の全国学力状況調査や市学習状況調査において出題された問題に取り組む時間を確保するなどして、出題の意図を的確に捉えられるようにしていく。
主体的に学習に取り組む態度	算数において、学年が上がるにつれ学びに向かう肯定的な回答が低くなる傾向が認められたため、授業の中で自分の成長を実感できる工夫を取り入れ、「分かる」「できる」楽しさを味わえるようにしていく必要がある。引き続きメタ認知能力育成のため振り返りの時間を毎時間5分以上確保し、授業の中で「分かったこと」「できるようになったこと」を書き出すことで、児童自身が本時の学びについて客観的に振り返り、次時の学びについて課題意識をもって取り組む「主体的な学び」へと高められるようにする。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査、算数の「知識・技能」において昨年度の結果より3pt向上させる。また、さいたま市学習状況調査の算数の「知識・技能」に関わる領域においてR4年度の自校の平均正答率より3%向上させる。	⇒ 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るため、「ドリルパーク」、「スタディサプリ」等での学習履歴を活用し、個別最適化された学びの実現を検討していく。また、生活場面と学習内容を結び付けられるようにするため、授業の終わりや単元の終わりに応用問題に挑戦する時間を取り入れるようにしていく。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査、算数の「思考・判断・表現」において昨年度の結果より3pt向上させる。また、さいたま市学習状況調査の算数の「思考・判断・表現」に関わる領域においてR4年度の自校の平均正答率より3%向上させる。	⇒ 筆者の考えや事象について、自分の言葉で記述する問題での正答率が課題となっていたため、共同学習ソフトの特性を生かし、考えをまとめたり、伝え合ったりする場を設定し、一人一人が自分の考えをもつ必要性を高め、主体的に思考・表現することができるようにしていく。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査の質問紙調査及びR5年度さいたま市学習状況調査において「算数の勉強は好きですか。」の質問項目において、肯定的な割合が昨年度平均を5%以上上回るようにする。	⇒ 授業の中で自分の成長を実感できる工夫を取り入れ、「分かる」「できる」楽しさを味わえるようにしていく。メタ認知能力育成のための振り返りの時間は、毎時間5分以上確保し、個人での振り返りの後、全体で共有する時間を取るようになる。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の算数の「知識・技能」に関わる領域において、自校同集団の平均正答率の経年比較を行ったところ、R4年度に比べて、小4で-0.2%、小5で+1.7%、小6で+0.3%となり、目標の3%には届かなかった。しかしながら、市平均正答率では、市平均を大きく上回っているため概ね達成とする。	B
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の算数の「思考・判断・表現」に関わる領域において、自校同集団の平均正答率の経年比較を行ったところ、R4年度に比べて、小4で-1%、小5で-0.8%、小6で+1.3%となり、目標の3%には届かなかった。しかしながら、市平均正答率では、市平均を大きく上回っているため概ね達成とする。	B
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査の生活習慣等に関する調査の「算数の学習は好きですか」という質問事項について、自校同集団の肯定的な回答の経年比較を行ったところ、R4年度に比べて、小4で-10.2%、小5で-4.5%、小6で-0.3%となり、目標の5%には届かなかった。次年度の目標設定について再考する必要がある。	C

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査における算数の「知識・技能」での平均正答率は、昨年度と比べると1.9pt低下した。三角形の図形の面積を問う問題では、「底辺と高さが等しければ面積が等しい」ということについての理解不足が見られた。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査における算数の「思考・判断・表現」での平均正答率は、昨年度と比べると3pt低下した。計算技能は高いが、文章を読み取って立式したり、図形の特性を活かして回答したりする問題の正答率が低かった。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査の質問紙調査において「算数の勉強は好きですか。」の質問項目において肯定的な割合は昨年度に比べて2.7pt低下した。しかしながら、「算数の授業の内容はよく分かりますか。」の質問項目において肯定的な割合は昨年度に比べて1.1pt上昇した。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。			
小3	算数における平均正答率は、市平均正答率より、+7.7%であり十分満足できる結果となった。問題別にみると「小数の減法の計算についての問題」と「単位の関係についての問題」の正答率が他の問題に比べて低く課題である。	小4	算数における平均正答率は、市平均正答率より、+2.6%でありおおむね満足できる結果となった。問題別にみると「目盛りの大きさに注目して、適切なグラフを選択する問題」と「整数倍にあたる二つの数量関係の場面と図を関連付ける問題」の正答率が他の問題に比べて低く課題である。
小5	算数における平均正答率は、市平均正答率より、+7.4%であり十分満足できる結果となった。問題別にみると「単量あたりの大きさをを用いて、こみ具合を比べる問題」と「複合グラフから特徴を読み取る問題」の正答率が他の問題に比べて低く課題である。	小6	算数における平均正答率は、市平均正答率より、+8.5%であり十分満足できる結果となった。問題別にみると「基準量と比較量に着目し、式に合う問題を選ぶ問題」と「部分を求める場面において、線分図に対応する比の関係を考える問題」の正答率が他の問題に比べて低く課題である。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の算数の「知識・技能」に関わる領域において、自校同集団の経年比較により平均正答率を3%向上させる。	⇒ スタディサプリやドリルパーク等を活用し、図形の練習問題に繰り返し取り組む機会を設けるようにする。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の算数の「思考・判断・表現」に関わる領域において、自校同集団の経年比較により平均正答率を3%向上させる。	⇒ 複数の情報から必要な情報を選択して立式する場面や、解き方について算数の言葉や数を用いて説明する場面を意図的に取り入れ、習得した知識・技能を活用する機会を設けるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査において「算数の勉強は好きですか。」の質問項目において、肯定的な割合が昨年度自校同集団の結果を5%以上上回るようにする。	⇒ 授業の振り返りを行う際、複数の視点を与えることで、自分の考えを整理したり、新たな課題を見つけたることができるようにする。既習を活用する場面では、児童にとって必要感のある問題を提示し、主体的に学習に取り組めるようにする。